

■適用作物と使用方法(抜粋)

作物名	使用目的	希釈倍数(倍)	10アールあたり使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチクロゼートを含む農薬の総使用回数
温州みかん	熟期促進	1回目: 1,000~2,000 2回目: 2,000~3,000	葉先からしたたりはじめる程度(250~500ℓ)	間引摘果をかねて使用する場合 1回目:間引摘果用として使用(満開20~50日後) 2回目:満開70~80日後 但し、収穫14日前まで	2回	立木全面散布	4回以内(1,000倍希釈)散布は2回以内)
		熟期促進だけに使用する場合 1回目:満開50~90日後 2回目:満開70~110日後 但し、収穫14日前まで					
浮皮軽減	2,000~3,000	1回目:虫尻期 2回目:虫尻期の2週間後 但し、収穫7日前まで					
きんかん	熟期促進	1回目:満開50~90日後 2回目:満開70~110日後 但し、収穫21日前まで					
かんきつ(温州みかん、きんかんを除く)							

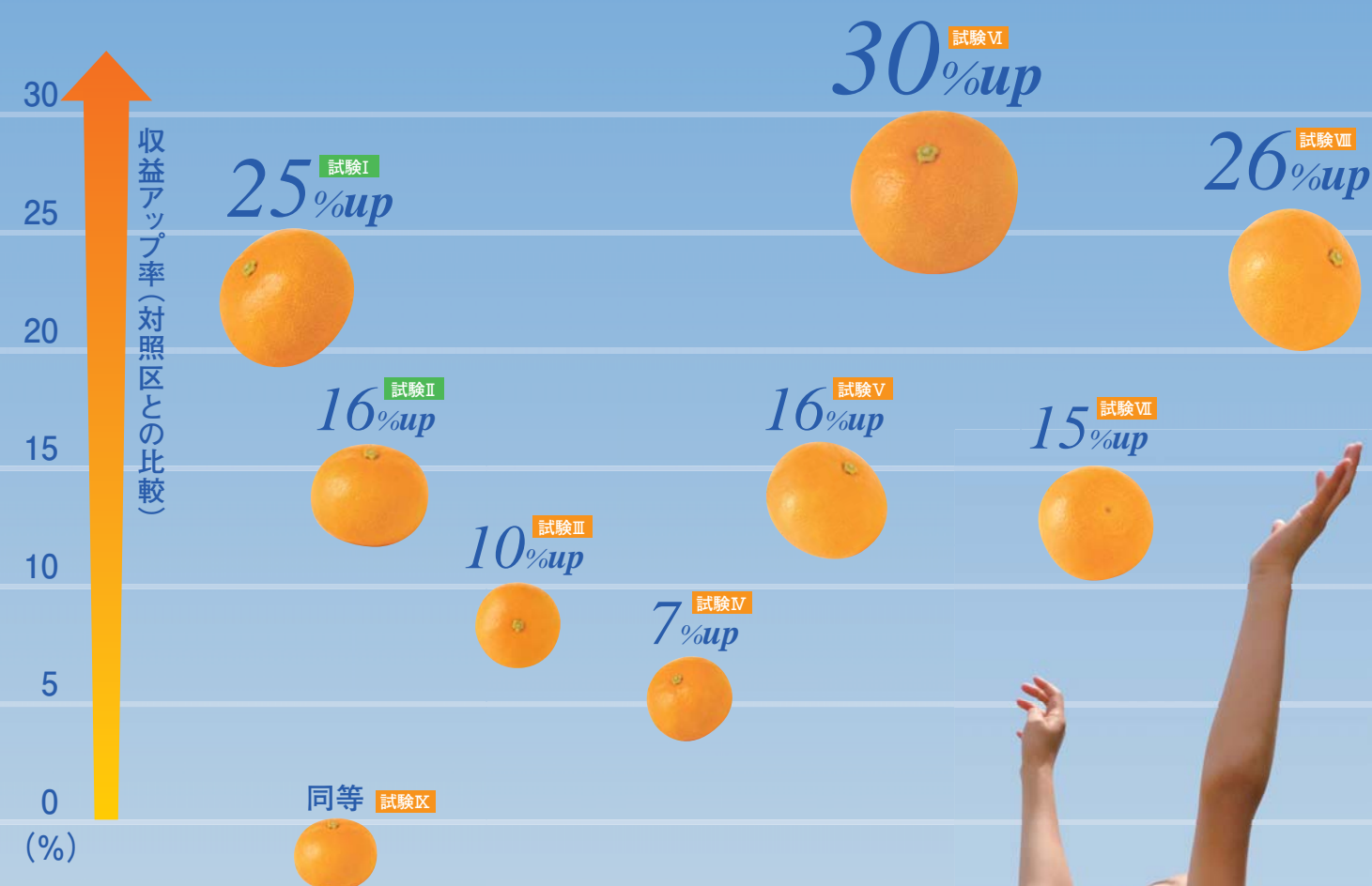
⚠️効果・薬害などの注意事項

- 使用量に合わせて薬液を調製し、使い切ってください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用、及び本剤散布の約10日前から1~2日後までの近接散布はさけてください。
- 使用の際は、薬液が葉先からしたたりはじめる程度にむらなく、ていねいに散布してください。
- 本剤は散布直後に降雨があった場合でも、再散布はしないでください。
- 本剤をかんきつに使用する場合は、7~8年生以上の樹勢の安定した成木に使用し、若木や樹勢の弱い樹、生理障害の認められる園では、効果が不安定であるので使用しないでください。
- 本剤はかんきつ及びかき以外の植物に対しても、ごく微量で影響があるので、周辺の植物にかからないように注意して散布してください。
- 使用後の散布器具などは十分洗浄してください。
- 本剤は、自動車などに散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意してください。
- 本剤は、微量で植物に種々の影響があるので使用に際しては、使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、特に、はじめて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 温州みかん、伊予柑、ネーブル、きんかん以外のかんきつに本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効、薬害を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤を使用する際は、それぞれの使用目的についての注意事項も併せて製品ラベルを参照してください。
- ※作物毎の注意事項はラベルをご覧ください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2018年7月現在の登録内容に基づいています。

フィガロンの おいしい効果で、収益アップ



光センサー試験で、フィガロン使用による収益向上が確認されました。

(社内試験)

■平成17年(フィガロン処理回数の比較)			
試験I	…A県	1回処理と2回処理対比	上野早生 125%
試験II	…A県	1回処理と2回処理対比	山崎早生 116%
■平成18年(無処理との比較)			
試験III	…A県	無処理と2回処理対比	上野早生 110%
試験IV	…A県	無処理と3回処理対比	上野早生 107%
試験V	…A県	無処理と2回処理対比	山崎早生 116%
試験VI	…A県	無処理と3回処理対比	山崎早生 130%
試験VII	…B県	無処理と1回処理対比	上野早生 115%
試験VIII	…C県	無処理と3回処理対比	岩崎早生 126%
試験IX	…D県	無処理と2回処理対比	岩崎早生 100%

■調査方法
約10aの圃場を各処理区に分け、フィガロン散布区は登録内で散布。各区をほぼ同時期に全果収穫し、光センサーを用い収益性の比較をした。

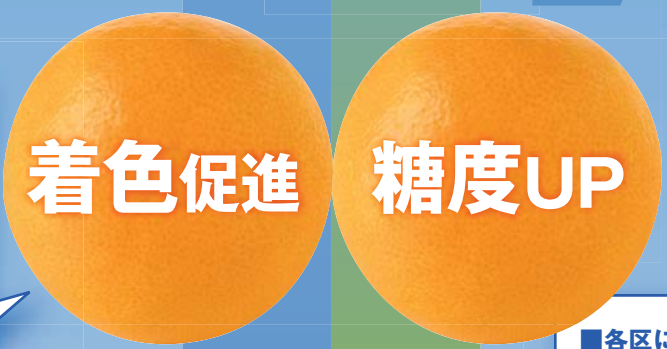
※3回処理は、熟期促進2回、浮皮軽減1回の合計です。※試験結果は一例であって、結果を保証するものではありません。
※効果を最大限発揮するために、適切な栽培管理を行ってください。

糖度アップ+着色促進。収益アップが期待できます。



2つの理由。 収益アップの

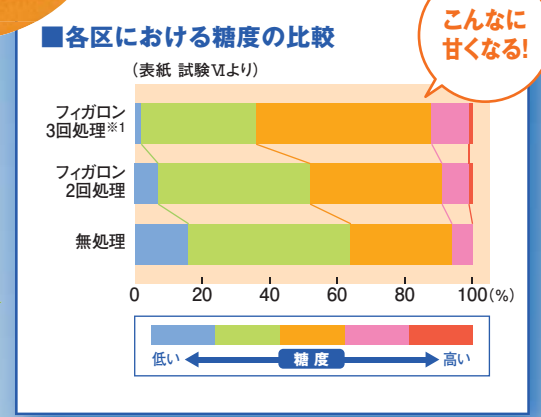
1 収穫果の着色が促進されるため、早期の収穫・出荷が可能となります。



早期出荷

等級UP

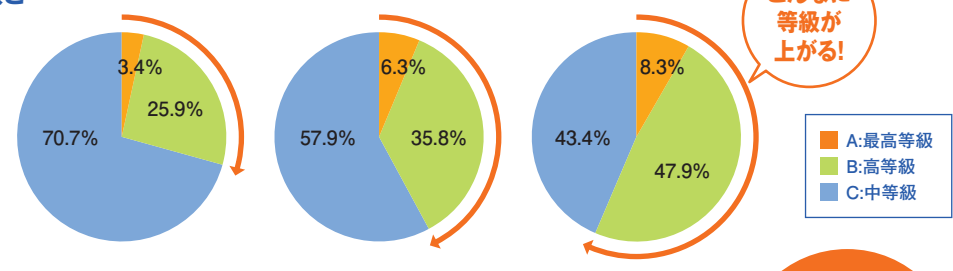
2 フィガロン使用により、収穫果の糖度が高まり、等級がアップすることが認められています。



2つのおいしい効果で、収益がアップしました!

下のグラフが示すように、フィガロンの使用により果実の着色が促進され、糖度が上昇した結果、高い等級の割合が増加したことが確認できます。このことから、フィガロンを処理することで、収益率の向上が期待できることが証明されました。

■フィガロンの散布回数と等級・収益性の比較



■ブランド率に基づく収益シミュレーション (10アール当たり)

フィガロン処理回数	無処理	2回処理	3回処理 ^{※1}
フィガロン薬剤費 (仮定小売価格)	0円	9,123円	12,772円
収量 (3t) に対する売上高 ^{※2} (A:300円、B:200円、C:100円)	398,100円	445,200円	492,300円
収益差	±0円	+37,977円	+81,428円

こんなに収益が上がる!

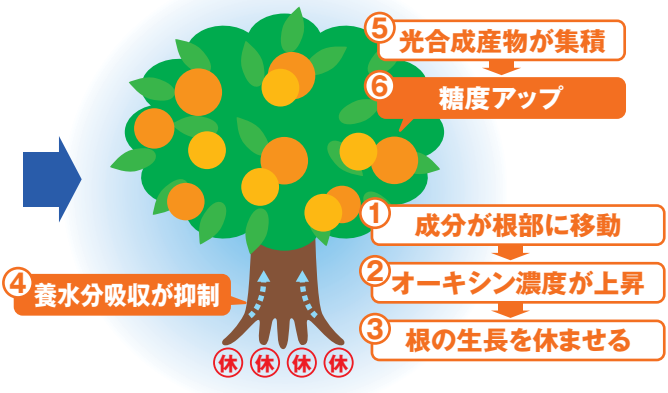
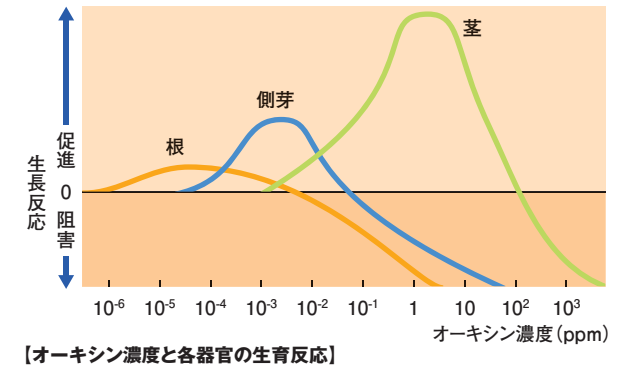
(平成18年 山崎早生 光センサーによる試験)

※1.熟期促進2回、浮皮軽減1回の合計3回 ※2.1kg当たりの売値を、A:300円、B:200円、C:100円として売上高を計算 (金額は年によって差異があります)

糖度アップのヒミツは、「養水分吸収を抑制する」こと。

一般的に、植物体の各器官はオーキシンの濃度に対し図に見られるような反応を示します。フィガロン乳剤も同様の働きを示し、根部に移動しオーキシン濃度を高めることで、一時的に根の生長を休ませます。これにより、根からの養水分の吸収が抑えられ、光合成産物が果実に集積。その結果、みかんの糖度がアップします。

■オーキシン濃度が高まれば、根の生長を休ませる

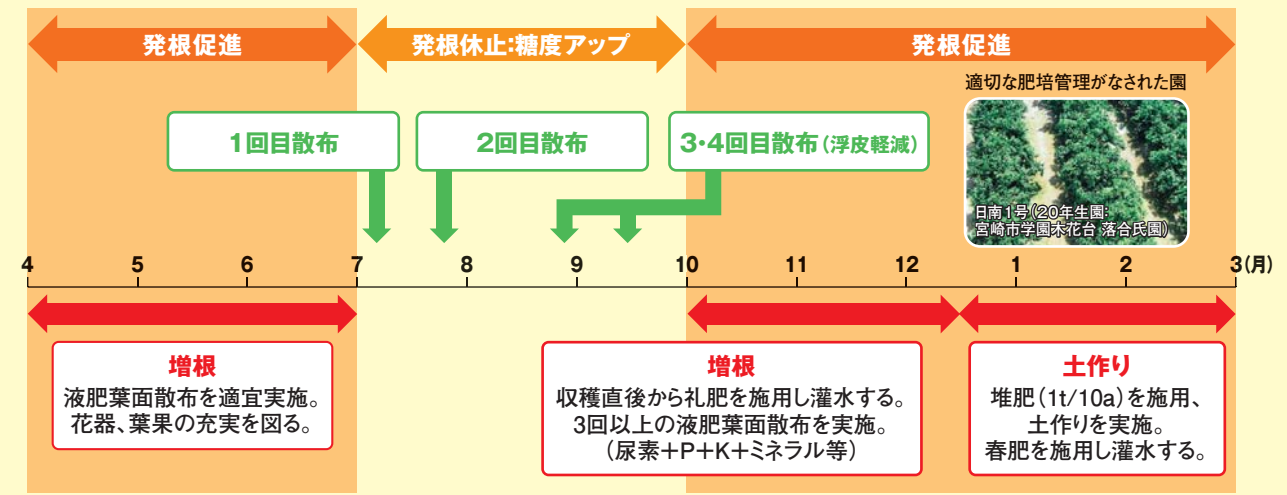


フィガロンの上手な使い方

収穫後から春の肥培管理が大切です。

必要な時期にフィガロンを使って根の生長を休ませ、糖度をアップさせる一方、それ以外の時期には適切な肥培管理により、根の生長促進を図ることが大切です。

■フィガロンの散布適期と樹勢回復のモデル作業 (早生品種の場合)



ワンポイントアドバイス

1 シートマルチを連年実践している園では
敷きわらや完熟堆肥を冬期施用して、根圏環境の改善に努めること。樹勢の維持を図りつつ、フィガロンを活用する。

2 コンパクト、低樹高を維持したい園では
フィガロンは若木時代には用いず、成園(8年生以上)から使用。夏秋梢の発生が抑制され、せん定を加味するだけで樹冠容積がコントロールできる。これにより、作業性の向上や密植弊害の回避ができる。

3 連年多収をはかりたい園では
収穫直後から液肥、礼肥などの樹勢回復策を実践すると、フィガロンが持つ花芽分化促進機能が生かされ、隔年結果を軽減できる。

4 シートマルチ連用により深根化し、増糖効果が低下した園では
フィガロンを熟期促進の目的で用いることで、増糖効果は維持できる。

5 フィガロン連用で樹勢の低下がみられる園では
1~2年間使用を休止して、結果量を抑えること。シートマルチによる強い水分ストレスはかけず、収穫直後から水管理や施肥管理など、樹勢回復に効果的な栽培管理に徹すること。

(監修:農学博士:河瀬憲次)